
贈る言葉

経営学部長 海老澤 栄一

今年度、お二人の教授が定年で経営学部を去ることになった。大場恒明教授、鎌田章教授のお二人である。

大場先生は平成元年にフランス語の専任教員として赴任した。鎌田先生も体育理論、体育実技の専任教員として赴任した。お二人は、いわば同期生である。平成元年は経営学部設立の年でもあるので、お二人は湘南ひらつかキャンパスの歴史と共に歩んできた、いわば第一世代の仲間である。せっかくの機会なので、少しハメを外して、私的接触も含めお二人のヒトとナリをご紹介しながら、15年の歴史を振り返ってみることにしよう。

大場先生には、一言で言えば、“万年青年”の風情がある。いつまでも若さを失わず、時には“青い”議論を熱く語る。教授会でもときに興奮し、声が次第に大きくなる。熱血漢そのものである。私も教授会の場で何度か叱られた。しかし先輩づらせずに、真っ直ぐ前を見据えたアドバイスを数限りなくいただいた。私にとっては、智恵袋のような存在だった。

鎌田先生は、私が学部学生として在籍していた昭和36年から40年までの4年間、体育実技で教わった先生である。当時、28歳の若さで、まさに油の乗り切った指導をされていた。本音を言うと、「恐かった」。二度とお会いしたくなかった先生のお一人である。その先生とめぐりめぐって湘南ひらつかでお会いするハメになるとは、何という皮肉であろうか。まさに邂逅以外の何ものでもない。その恐れは的中し、教授会で鎌田先生からも何度か叱られた。しかしその内容はいつも正論であり、こちらが反省することしきりであった。

私的、公的にお二人から人間の生き方、ヒトとの接触の仕方、協働作業の進め方などで、多くの貴重なアドバイスをいただきました。この場をお借りして、改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

大学運営、ますます困難なことが山積しています。そのような時期にわれわれをおいてキャンパスを去るお二人に対し、正直なところ、複雑な気持ちをもっています。しかし現実には冷静に受けとめなければなりません。どうか、いつまでもお元気でご活躍ください。そして、残された私達を暖かく見守って下さい。またお目にかかりましょう。